

標註職原抄校本

上之末





つくりかはんこそ最うくある御
 事せめ何の悪き例よはん實
 よそれハ故實よ疎く後人の加筆
 疑りその妻后二宮の盤腸ハ一
 茶御宇ハ藤道隆女定子と藤
 道長女彰子との二人よたねり
 弁疑よ台別記と引て定子正曆
 元年十月五日為中宮長保二年
 二月二日改中宮為皇后彰子長
 保元年十月七日為女御二年二
 月廿五日為中宮云々これより道
 隆の薨後道長執柄となりて定
 子の執りまはさるも憚るは已々女
 を入内さきりこれを上東門院
 とりよこしく榮花物語に見ゆ
 朝廷の衰微實よ當代よまき
 たりそのよハ別よ昏禮考よ
 いり推記よこの時の事を論て
 是漢哀亂代之例也とのまへりな
 別記よ二宮の在所と詳よいり
 尤撰其人當代の妻后よ附り官人
 なるゆを撰よせり

大進一人

相當從六位上
 唐名内給事

名家五位任之

少進一人

相當從六位下
 唐名同前

諸大夫五位六位任之

大屬

相當大正八位下少從八位上
 唐名内侍主事或録事

少屬

院主典代官史生等任之



但可依時事也。ハ上東門院也。の如きこと。花族四位五位中少將ハ正亮ハ名家を以て任は然るは権亮より。花族より任は。古注ニ是為經歷而非可令知職中諸事也。

院主典代云々ハ天皇御生涯治世の君マテ。エハ崩御マテ脱履の御事ナリ。故ニ令條ニ於テ院中の諸官ト建ルハ。其の後脱履の帝ルマテ。世ニシテ。院中附属の官人を補コ。事起リ。即別當執事ニ預判官代主典代等也。令外ハ。別當或ハ代ナリ。の稱アル也。

大舍人ハ内舍人ニ對スル稱也。大ニ内ト對スルハ大藏と内藏との如ク。令義解ハ大舍人ニ供奉之人トアリ。如ク禁内殿下の庶事を供奉シ。乃チハ。その綱ハ職貢令ニ分番宿直假使容儀ト云えて。その和ニ使ニ因公事差使也トアリ。その目ハ大舍人寮式ニ諸司奏事の時。門の事を始メ。或ハ諸陵の頒幣。或ハ追憐。或ハ監物の管鑰。請進。或行幸等供奉ト云々トナリ。旁注ニ昔八百人とハ細一カハ。令ニ依ニ寮左右あり一寮ニ八百人

大舍人寮

唐名宮闈局掌官中駟使事

頭一人

無權官相當從五位上

諸大夫五位任之

助

相當正六位下

權助

同六位任之

大允

大相當正七位下少相當從七位上唐名宮闈主事

少允

六位侍任之

大屬

唐名宮闈令史

少屬

左右マテ千六百人也。その後半減。キ。乃チ大同二年ニ復舊。同三年八月併左右為一。類史ニ載スル。の時減貢の所見ハ。一寮ニ併ケルニカ。ガレハ人数モ。半減。モ八百人ニナリ。乃チ仁十年八月廿六日官符云。減定大舍人負支元八百人。今定四百人。乃チ於テハ四百人ニナリ。旁注ハ此元八百人とアリ。を見てハ。乃チ一寮ニ併ケル。乃チ元八百人とアリ。如ク一寮の貢數。乃チ元と云々ハ六百人と云々ハ合ハる也。

圖書寮ハ職貢令ニ經籍圖書修撰國史內典佛像宮內礼佛抄寫裝潢功程紙筆墨の事ト云レ。乃チ綱也。乃チ圖書

式ニ元日大極殿庭火爐掃ヲ始メ

正月御齋會ニ季御讀經灌佛

佛名の裝束及ハ行幸ニ御研案

圖書寮

唐名秘書省

和琴等を以て從駕一御書圖繪の曝涼まじ紙筆墨を造らむる負數品目見ゆこれ目也

諸道古注云紀傳明經明法兼勸學院并學院學館院云之諸道

六位等ノ等字を下キハ古注ニ六位諸大夫諸道六位也といふや上文言をうけるニ依てなり

侍等の等字板本文ニ依てかりゆの古本の元キニ從フ

頭一人

無權官相當從五位上唐名秘書監著作郎

諸大夫五位及諸道輩任之

助

相當正六位下唐名秘書少監

權助

同六位等任之

大允

唐名秘書丞

少允

六位侍等任之

大屬

唐名秘書主事

少屬

内藏寮

唐名倉部又云少府掌御服御膳等事

頭一人

相當從五位上唐名倉部郎又少府監或尚衣奉御又藏帑令

四位五位殿上人擇其人任之於禁

中為重職又世俗說妻室凡卑之人

不任之專知御服等事故也

權頭一人

内藏式ニ諸祭幣帛諸陵幣御齋會以下佛事の布施大極殿の装束の物御中宮東宮の冠服等

内藏大藏ニ對スル稱ナリ大藏ニ太

古齋藏といへりそのより彼省の條

ニシテ古語拾遺履中天皇の

事ニ依テ齊藏之傍更建内

藏ハ取官物これ依テ内藏の名

いハク旁書ニ掌御服御膳等

事トある板本御服二字を脱ス

古本を以て補ふ職負令ニ掌金銀

珠玉寶器錦綾雜絲黼黻云々

年料御服トあるの綱ニテその目ハ

内藏式ニ諸祭幣帛諸陵幣御

齋會以下佛事の布施大極殿の

装束の物御中宮東宮の冠服等

さうりになつてゐるに旁書に載た
るが、一、その損廢の物とハ
賣拂ひ、二、夫木集、三、これ
やんごのつゝのやう賣りわかれ
—と、つゝのやうに衣笠内府の
歌夏部に出つ御膳の事、式、所
見、なれと、江家次第内侍所御
神樂篇、内藏寮以甲折櫃物
并合傳供米六合、帝二合、精進
物四合、魚類四合、菓子四合と見え
建曆御記、即位始供神物四
十合、自内藏寮進之とあり、な
り依り、内侍所の御膳の事也
四位五位殿上人訓要、可然四
位の殿上人これに任は、一、と
あり、下卷、御厨子所別當内
藏寮頭補之と見え、を以て拾
芥抄御厨子所の件、あは、考
る、四位殿上人為別當といへり
然れ、内藏頭ハ五位殿上人ハ補

諸大夫五位任之、諸寮權頭中内藏
木工左右馬殊為宜也。

助 相當正六位下唐
名倉部負外郎

權助

近代多者醫陰二道任之、勤仕賀茂
祭内藏使者也。

大允 唐名倉部丞
少府丞

少允

六位侍等可任之、歟、但強不望之。

大屬 唐名倉部主事

少屬

禁中古注、史記注蔡邕云、門戸有
禁、非侍御不得入、故曰禁中、と
いふ説の如く、即兼明門以内
の事なり
專知御服等事、古注云、山科家御
服調進之事、譜第被勤之、於高
倉家者、柳衣又被勤之
醫陰二道任之とあり、醫ハ和氣丹
波陰ハ賀茂安倍也、醫の任を
る、内藏式蜜蕪の事あり、依り、陰の任を、建曆御記、毎日被御衣許とあり、これの故歟
賀茂祭云、四月中酉日也、但公事根源、中申日を賀茂國祭として、國祭ハ賀茂の本祭なり、一、こ、や
酉日ハ公家より使を立、れ走馬を獻せ、間相つる、へ、こ、やとあり、江家次第、酉日の
勅使路頭次第、内藏御幣内藏使見、續後記、兼和三年四月乙酉、天皇御紫宸殿、閱
覽賀茂祭使等、以播磨守橘永名權為内藏頭、令供祭使
位侍等の等字古本、こ、や
但強不望之と古注云、此職終于助以上於允者不望職歟

縫殿寮ハ十二女司の考課を定め及衣服と裁縫の事も掌る令條の事也然

縫殿寮

唐名尚衣局掌裁縫事

頭一人

無權官相當從五位上唐名尚衣奉御或掖庭令彩縫監

諸大夫五位任之

助

相當正六位下唐名尚衣少監

權助

同六位任之

大允

少允

六位侍任之

大屬

少屬

陰陽寮

天文ハ今義解ニ日月五星二十八宿と見えり曆數ハ古注ニ計日月之度數而造曆授時といり一家ハ賀茂氏のことなり此氏ハ吉備公の後裔ヨテ幸徳井といふ

安倍晴明ハ阿倍倉掾磨の後裔ヨテ土御門といふ也兩道相分古注云今賀茂家称幸徳井又安倍家土御門又倉掾等也

掌天文曆數事昔者一家兼兩道而賀茂保憲以曆道傳其子光榮以天文道傳弟子安倍晴明自此已後兩道相分

當道之極官也當道中位次第一任之但不堪其器者次人得之百寮訓要云賀茂安倍の西家第一の者これに任じ更じ他人の任じぬ官なり殊更名譽重代と撰るなり

頭一人

無權官相當從五位下唐名司天監大史監祠部郎中五行尹

當道之極官也

助

相當從六位上唐名司天少監大史少監五行少尹

權助

同道輩五位六位共任之

大允

唐名司天丞大司丞

少允

同道被官門生等任之

大允少允古本がの如し今式の所見ハ陰陽允ハ小寮なるゆゑ大少なり拾芥抄大少あり此抄ハこれ依まらざ一本の旁注大少共相當從七位上とあり大少並に證也被官の字用ひやたらうものより上より

大少屬官職秘抄云自陰陽師轉之不經陰陽師任例有之

大屬

少屬

陰陽博士同抄云當道以之為重職仍門生補之例太希也皆以重代器量者任之

陰陽博士

相當正七位下唐名大卜正

權陰陽博士

同道五位已上任之

陰陽師

相當從七位上唐名大卜師

近來強不任之歟

曆博士

相當從七位上唐名司曆或司曆正保

陰陽師職負令六人ありて掌古並相也

近來強不任之故官職秘抄以得業生申任之とあり玉葉安元元年の除目二人任例ありその後のもこのふりや可考

權曆博士

曆道任之近代五位已上任之

天文博士

相當正七位下唐名
司天又靈臺郎

權天文博士

天文道任之近代五位已上任之

漏刻博士

相當從七位下唐名司辰
或司刻又挈壺郎

權漏刻博士

五位六位並任之

天文博士職負令候天文有異密封とあり北山抄に密奏人上奉勅召仰其人と見えていづ事なり建曆御記に毎有天變奉奏書司天先奏内覽人許執柄覽之加封返則司天給之持奏内裏藏人取之付内侍天子覽之云々侍中輩要此奏不理時刻天文道任之天文得業生より任之朝野群載に見ゆ陰陽頭より兼る例上山船主より始也續紀室龜七年にとも漏刻博士職負令に依るに守辰丁と率て漏刻の節を伺ひ丁に鐘鼓を撃つに陰陽式の時鼓を

擊ち刻は鐘とく事見ゆ

内匠寮令集解云釈云神龜五年七月廿二日新置内匠寮頭一人助一人大允二人少允二人大屬一人少屬二人史生八人直丁

二人駈使丁右令外増置以補闕少

其使部以上考選祿料一同木工寮

且附所司以為恒例寮即入中務管

内之負

掌工匠事但近代云ハ旁書也内匠式

職掌見えたり然るに建曆御記に

内匠寮近代に藤子破積許奉仕

故昔與令異

内匠寮

令外唐名少府掌工匠事但近代木工修理專知其事頗似無

謂其

頭一人

無權官相當從五位上
唐名少府監或中匠令

諸大夫及諸道五位等任之

助

相當正六位下
唐名少府少監

權助

同六位任之

大允

唐名少府丞

少允

六位侍任之

大屬

唐名少府主事

少屬

已上中務被管也

式部省

當唐吏部

周禮天官大宰之職也國家典章皆

已上中務被管也今條ハ内匠寮々
くて此外ハ盡工内樂内礼の三司
ありその盡工内礼ハ大同三年内匠
寮と彈正臺と併せられ内樂
ハ寛平八年ハ典樂寮と併せら
れしハ此抄ニハナ
周禮天官大宰之職也の大ハ冢の
誤なりん周礼冢宰之職掌建
邦之六典以佐王治邦國云鄭

是此官所統也本朝文官除授考選
事今猶掌之

卿一人

相當正四位下七省皆
同之唐名吏部尚書

近代親王四品已上任之人臣任之

希例也凡當職其寄異他每年於本

省行諸國一分召也一分召者任諸

國史生名也史生謂之一分内給院

宮大臣已下參議已上皆有年給式

目錄云冢天所立之官也冢大宰
官也天者統理萬物天子立冢宰
使掌邦治亦所以總御教官使
不失職云云依周の冢宰
ハ式部の任ありしハ太政官
とありしハ通典と考ふ武大右
遂以吏部為天官戸部為地官
礼部為春官兵部為夏官刑部
為秋官工部為冬官以承周六官
之制若參詳古今徵考職任則天
官冢宰當為尚書令非吏部之任
今吏部之始宜出於夏官之司士
とありし論也

國家典章ハ國家の典法文章と
つゝ冢宰ハ内統百官外均四海
の職にて典法文章とりの任
とありし但これハ推后彼武大改
制と擬して周礼古義ハ本つ
りかきまのりなり故ハ式部
ハ合ハと天官ハ合ハハハ國

家以下土字實ハ周礼天官の解おれも意ハ式部の事こととて者もの云いハ

本朝文官除授者選古注こ自是云本朝之義除者除目也除舊官任新官之義授者授位也いある如ごとく但除任ハ太政官た掌之故ゆ公式令義解ご太政官任主典以上し見多みて除目の執筆必大臣しのしなり然しかも除任じらるらる人ハ式部し掌しのし也此省こより太政官た申送し即式部式し凡選任者奏任以上者省注し可用人名申太政官たあるあるある但た此ハ又官の事也武官ハ兵部へこれを掌しもも式部の如ごとく授位ハ公式令義解ご中務授五位以上し式部授六位以下し之類しある如ごとく五位以上の勅授ハ中務六位以下の奏授ハ文官ハ式部武官ハ兵部也考選しハ毎年の功過し考校して中し以上の官

部卿行之也近代其禮久絶畢件日

者式部卿乘鹿差絲毛車殿上丞一

人乘結唐尾馬前駟云こ

大輔一人相當正五位下唐名吏部大

權大輔

近代儒中二位三位帶之

少輔一人相當從五位下唐名吏部少

少弼

權少輔

儒中之重職也仍他人不任之

大丞二人相當正六位下唐名吏部郎中

少丞二人相當從六位上丞又云侍郎

紫微官云こ是六位藏人為式部丞而叙爵時事也

當省并民部丞謂之二省丞必可給

爵者所任也但式部者可然諸大夫

云こ良家任之民部者侍之中宿老重

人を選ひ位を授くることなり凡し考字をハ上の除字し混し選字をハ授字し混し者ものハ別べち解いはる

近代親王云この近代二字古本こ無きと是こは弁疑云古こより親王を任しるし事也官職秘抄云卿中務式部兵部必以親王任之但家麻呂任中務卿是公

兼式部卿非永前之通規本省こハハ式部省也

行諸國一分召小野宮年中行事云二月式部省行一分除目事或正月行之し見也日こハ定し召字

ハ二分し補しへし者ものを式部し召集し義也

史生謂之こ一分しハ太政官条こハ一し選叙令し史生し式部判補し見也

ハ一分しの史生し他官し構しハ式部

のこ一省しのし掌しハ一分し召しハ式部の規模しハ事也

内給拾芥抄云内女房中給也除
秘抄云内給椽二人目一人一分廿
人

院宮とハ仙洞と后宮となり東宮准
后もこれなり江家次第云云

以上院宮也東宮准后在此中除
秘抄云院宮給椽一人目一人一分
三人

大臣已下云除目執筆抄云太政大臣
給目一人一分三人大臣目一人一分
二人納言目一人一分一人参議目一
人一分一人

皆有年給の皆字内給以下皆也但
この内二分以上除目と給一分と
式部省にて別日を行ふ

其礼久絶畢とハ文治以来諸國の
守護地頭を置て武家より政
事を少汰せり國司の遷

任その實を失ひゆ急も諸國史生の事なれ共絶るなり

衆庇差絲毛車西宮記云式部卿依二分召奏省衆庇指糸毛車と見えれハこの事舊式と異なり衆差ハ和名抄云

代革任之号民部太夫五位是也假

令檢非違使受領等次也抑當省丞

者依闕所任也若無其闕者以大丞

上臈令叙爵次第轉任加新任者也

又叙爵時乃去其職

大録 大相當正七位上少相當
正八位上唐名吏部主事

少録

長簷車俗云鹿刺車是乎とあり世俗淺深秘抄云鹿打付葎差上部有兩説といへる差上部その鹿差あり
和名抄云長簷とあるハ半葎と對する稱よその鹿長く差出らるなり一蛙抄云前後有鹿とあり
絲毛ハ延喜式云絲菁と見ゆこの絲毛青糸毛紫糸毛の別あり青と尊とハ蛙抄云后宮中宮春宮准后
衆青糸毛更衣典侍尚侍衆紫糸毛とありと知一浮淺抄云ひろげけの車同物也ひろくと細くワリた
れハ糸のやうに細く白くうつくしく見ゆ名物の青糸毛もろのりけ細きびらりと青く藍にて染る也云
是に依て按る青糸毛ハ檳榔と青く染る糸毛紫糸毛ハ檳榔と紫く染る糸毛にて檳榔車ハその
毛を染びて白のまゝにて青く染る車なり一故一浮淺抄云同物とハ一染られ同物と云三色一別と云
とてハ車の上と曹く料の物にてその曹く糸の餘り鹿と垂てへりハ一車也親王ハ尋常ハ檳
榔也蛙抄云檳榔車親王執政太政大臣用之とあり一分召の日一限り糸毛を用ふ故二件日者といへる也
殿上丞云式部丞にて六位藏人を帯け殿上丞といふ藏人ハ六位にて殿上とけりなり一下卷云一結唐
尾馬ハ古注云結上馬尾也又有尾袋多用唐鞍之時也云尾と結び上ハ尾袋入るなり為なり唐鞍の
時ハ尾袋を用ふこと飾抄云その例見ゆ唐鞍一乗とハ尋常の儀あり今日ハ御糸毛車
に乗り玉ふゆ名に丞もこれに准へて結唐尾馬を用ふなりこれ一分召ハ式部省の晴儀に依て也
儒中二位三位官職秘抄云大業之中撰之授之於大輔雖昇参議散三位不去古者日野南式管江等儒
也今管氏任之
仍他入不任之古注云少輔者儒道可任之也外記之故實云書出關官帳之時於式部少輔之闕者不載之云
見和漢官職抄

吏部侍郎職侍中著緋初出紫微宮これハ和漢朗詠に見え延長六年藤原在衡の式部權少輔從五位下にて藏人
に補て殿上とけりと橘正通賀一詩也吏部侍郎ハ式部大少輔の唐名侍中ハ藏人の唐名也但これハ
太政官の別記といへる如く大納言の唐名なる中古に誤て藏人の事とけりこれハこの詩なる侍中ハ即五位藏人

次第旁注云件像元慶四年巨
 紫金剛以唐本所圖繪也或說
 曰吉備大臣入唐之時持弘文館
 之畫像歸朝安置太宰府學業
 院大臣又命百濟畫師奉圖彼
 本置大學寮之依るに畫
 像なりとも同書に先聖先師古者
 以周公為先聖孔子為先師唐太宗
 貞觀二年詔停周公為先聖始立
 孔子廟堂以神尼為先聖
 春秋二仲釋奠の儀ハ二仲ハ二月とハ
 月と也江家次第ハ二月八月上下
 若廢終者中丁行之若又延引者
 停止不用下丁當園韓神祭同
 日行之諒閏年停止と見也釋
 奠ハハ令義解ニ釋菜奠幣と
 あつたれ礼記王制より出づる字
 なり万葉緯頭書云釋奠始子
 文武天皇大室元年二月後花園
 院寛正年中其礼尚未廢迄

助 相當正六位下
 唐名國子司業

權助

諸大夫任之

大允 相當七位唐名
 國子司丞

少允

近代六位侍任之

大屬 唐名國子主簿

少屬

乎後土御門帝應仁元年大亂逢洛中之兵發其礼絶矣自大室至應仁凡七百六十七年
 東西二曹本朝文粹ニ伏檢故實菅原大江氏建立文章院分別東西曹司とあり菅江紀傳の儒者紀傳ハ
 文章を主とす故ニ文章院を寮内ニ建てその院ニ二曹を置る也つたれハ二曹ハ文章院内ニありて
 大學寮中のものなり此抄のうきま今少一事ゆゑとて東曹の祖ハ江音人卿西曹の祖ハ菅清公なり
 その事も文粹ニあり
 出身之儒ハハ出身匠ニ儒と云ふことなり
 非儒古注云非譜第儒者云之非儒

文章博士ハ令集解ニ神龜五年七月
 拾文章博士一員云つたれハ文章の
 名令外ハあれともいふ類史
 大同三年二月減直講博士一員
 置紀傳博士も同文ニ兼和元
 年四月勅宣停紀傳博士加置
 文章博士其紀傳得業及徒亦
 傳之と見也神龜ハハ文章一員
 たりとこの時一員を加置と
 られて二員となり
 紀傳道ハハ史学の事也故ニ文
 章を主とす即兼和元年ハ

文章博士二人

相當從五位下唐名翰林學士又翰林主人

紀傳道儒士之撰也異朝殊重之居
 此職者必轉于參政也又詔勅等悉
 學士之所書也本朝同雖主文章於
 詔勅者内記之所掌也

紀傳を停てとれを文章より其れ
たを以て知へ一博士の名より
その八停りたれれ其道を傳れ
たるはありは故に紀傳の道を学
一人を文章博士とせり

轉于参政の政字本議に作る誤也
弁疑云々ハ異朝の事を記すハゆ
る古本ハ参政とあり参政知政事
の官を以て宋職源云乾德三年太
祖召陶穀問曰下丞相一等有柯
官對曰唐有參知機務參知政事
今可用之云云と云々の參知政
事ハ唐よりあり事文類聚に
後魏古河為尚書令參知政事
これより後なるハ同書に唐劉
洎張文瓘皆參知政事
博士此抄は文章の下に書たりと
いへともこれハその位次に依て
大學に於てハ博士主するべきと
勿論也令條に文章明法の

博士一人 相當正六位下
唐名大學博士

明經道之極官也中古以來清中兩

家依位次任之号大博士近代五位

已上之官也

助教二人 相當正七位下
唐名國子助教

同道輩任之近代五位已上之官也

直講二人 相當正七位下
唐名直學士

同上

音博士二人 相當從七位上
唐名音儒

同道末儒官也近代五位已上

書博士二人 相當從七位上
号書儒

同上

明法博士二人 相當正七位下
唐名律學博士

明法道之極官也中古以來坂上中

原兩流為法家之儒門以當職為前

途

西博士なく紀傳も律令も共
この博士より兼らるる依て明
經博士と稱さるるては博士といへ
るものなり

清中兩家云々清原と中原と
古注云以當道兼外史局務為先
途

大博士下學集云明經博士大儒
近代五位官也の位下一本已上之の三
字あり古本ハ脱さるるなり

五位已上の五字一本六に作る但本の
まはるるなりと云々官職秘抄
に叙四位後猶有不避例これ五位
已上の証なり

直講令外也令集解に神龜五年
七月直講三人云この時始て置
然るを上にいへる如く大同三年
に一員を減て紀傳博士を置く
これより二人にちなり古注云唐
憲宗朝有直學士當本朝直講

音博士云の音ハ漢音也皇國ハ吳地ニ近キ故ニヤ古ヨリ吳音ヤレヤ
 明經之徒不可習吳音發聲誦讀
 熟習漢音とあるを以て知へ佛書
 も漢音ヤリヨリ類文ニ見ゆ今ハ
 儒書ハ漢佛書ハ吳也との音ハ文
 選用雅ニ依て学ぶなり
 書博士ハ字樣を解り事をせし華
 迹と美しくひるを習ふ今集解ニ不
 依知字體之説とあり
 明法とハ律令の法制ニ明なり也
 考課今ニ凡明法試律令十條カ
 めれも職責今ニその名を載せし
 博士より兼れはなり博士より
 兼るなり律令を以て試を受る事
 も学生の兼業なりこれハ紀傳明
 經明法とも今條ニてハ博士こ
 れを兼掌ること上ニあり
 善家者習算術の算術ハ學令ニ升明

算博士二人

相當從七位上
 唐名算學博士

算道之極官也算道者三善氏傳之
 仍一人者必用其家儒也今一人小
 槻氏任之善家者習算術也小槻氏
 者為諸國調賦美勘居其職云々
 凡四道儒者第一等秀才第二等明
 經第三等明法第四等算道也見今
 條紀傳儒者古來多有登用之人大

術理と見えて九章海嶋周髀
 との類の算書を明らめ隱と求む微
 と知ると旨と良善相公の辛酉革
 命の運を推て菅丞相といひ
 りるなり斯道ニよりき所政也
 調賦算勘とハ諸國の貢物を調
 といひ庸役を賦といひなり
 秀才今集解古記ニ謂文章生とあり
 二ハ第一と云ハ往昔ハ作文を難
 一とせゆゑなり今世ニ於てハ明
 經最易ハき歎かてこの四等ニハ
 學士難易の次第也博士優劣の
 順路として看るべし
 見今條とハ學選叙考課の三令
 とあり
 登用ハ書經亮典ニ登庸と見えて
 注ニ庸用也
 大業ハ大才といふなり
 菅氏古注云菅原道真昌泰二年任
 右大臣

業之儒任大臣菅氏及粟田大臣在
 衡公等是也至今日野南家儒昇納
 言日野俊光卿始任大納言畢管家
 相續又任參議者也明經者昔愛成
 為寬平侍讀聽昇殿其後清中兩流
 立其家以外史局務為先途或
 以候院上北面列執政家別當為極
 望近至先朝清原良枝真人為二代

粟田大臣同云藤原在衛安和二年

任右大臣天祿元年尤大臣

日野八右大臣藤原真夏の後裔北家の支流也

南家ハ藤原武智麻呂の後裔也

淡海公ハ四男あり一男武智麻呂

と南家とハ二男房前と北家と

ハ續紀天平宝字四年八月の件

ハ南北西尤大臣とありこれなり

三男宇合を式家とハ式部卿

たり一ゆゑなり四男麻呂を京

家とハ尤京大夫なりゆゑなり

大鏡ハ不比等の大匠男子四所

と四家とありなりハ門をもち

ちなりといひ

日野俊光卿始云ハ中絶して

又始なりとハ日野の祖真夏ハ右

大臣なりハ後葉沈淪

なりハ俊光ハ及てきと始て

大納言ニなり也古注云文保

元年六月任大納言

菅家相續とハ日野南家等ニ相次て

の義也ハ續ハ次の借字なり古

注云聖廟以來為長卿任參議為

長者土御門順德後堀川後醍

醐侍讀也又長祿文明以後或納言

云ハ此抄の比ハ菅家ニ納言

の儒者なり也故ニ參議との

の義なり

愛成善淵氏也文德實録の撰

者の一人也古注ハ中原康富記

を引て云宇多御時侍讀博

士善淵愛成仁和四年十月

以周易奉授天皇之日叙正

四位下とあり昇殿の事ハ所見なり

立其家ハ明經の儒者と立たり

先述ハ至極の處也

上北面ハ諸大夫之列也下北面ハ侍の品とハ名目抄變斷餘等の説より北面上下共ニ所の名也梅窓筆

記ニ為經卿記寛元四年二月廿一日院上北面始也上北面以殿上北面二間為其所下北面副北築地有五間

屋以件屋為其所と見え著聞集ハ上北面ハ重輔朝臣一人を侍るこの上下北面ハ白河天皇

侍讀為七旬耆老口奉授六經之說

古今未曾有云ハ仍有勅問被聽昇

殿其子賴元又追父跡昇殿畢明法

者昔允亮道成等以當道任廷尉佐

勘解由次官等坂中兩家立家以來

以廷尉法儒大判事為先途又候院

下北面執柄家已下侍所輩等有之

中原章職其孫章任等依為侍讀致

訴訟被聽院上北面其後章任被任

修理權大夫畢算道者當初尤微々

也而三善雅衡屬權貴起其家子孫

補六位藏人至遠衡朝衡者刺聽仙

籍訖

正下加階の殊恩と云ハハかあり然あり

上北面ハ諸大夫之列也下北面ハ侍の品とハ名目抄變斷餘等の説より北面上下共ニ所の名也梅窓筆

記ニ為經卿記寛元四年二月廿一日院上北面始也上北面以殿上北面二間為其所下北面副北築地有五間

屋以件屋為其所と見え著聞集ハ上北面ハ重輔朝臣一人を侍るこの上下北面ハ白河天皇

脫履の後に始て置わたり
執政家別當ハ攝家の家事を掌る人として大臣家ニハなまじものなり
先朝ハ後醍醐天皇也

二代坂本二人コ作テ誤也古本を以て改む後宇多後醍醐の二代也二代の事下コ論ハ
為七旬耆老の為字坂本作コ作テ誤也古本を以て改む耆老ハ極老といふなり如ク耆と老とを分ち看コテハ
六經トシ詩春秋易書禮記の五經ニ周禮をそへてハハナシ

仍有勅問抄聽昇殿トハ執政大臣コ勅問コテその可否を議テ聽タリ也古注云康富記云元亨三年大膳大
夫清原良枝聽内昇殿依龜山後宇多後伏見後二条花園後醍醐東宮七代侍讀之賞也コの記を以て
レハ上コ二代トアルハ七代の誤歟カ不考ヘリ

追父跡の追字坂本總コ作テ弁疑コ古本追父を以て玉葉嘉應二年二月コ明日拜任升官之後河申行政且追父祖跡
アル旁例を引テ改テコト也

昔允亮云コ古注云允亮惟宗氏道成坂上氏也官職秘抄云明法博士兼廷尉佐例允亮兼勘解由次官例道
成

廷尉法儒大判事三官各別也廷尉ハ上アル廷尉佐コハアル故コ古注コ不可當檢非違使佐唐名可當尉也見
使願篇コアル法儒ハ明法博士をコリ

執柄家已下侍所ハ攝關の侍所也別當職事アル拾遺集詞書コ清慎公家のコトアルコトアル即侍所の事也源
氏物語との他の書とも見ル

其孫章任の孫字諸本子コ作テコト中原系圖章任ハ章繼の子章職の孫也故コ孫コ改ム章職ハ後醍醐後深草
の侍讀章任ハ後二条後花園の侍讀アル章任の父章繼も侍讀たりカト上北面コハ上ラコトアル
修理權大夫コ卷修理篇コ四位五位殿上人或諸大夫任之頗規模也

算道者云コ古注云三善清行以後善家官位昇進死至極之人

起其家古注云三善氏西園寺家々司也于侍西園寺相國實氏公後深草帝外祖也且西園寺家與北条修文專
權勢故雅衡屬被推貴起其家

聽仙籍トハ殿上を聽タレテ日給簡コ其名を記コテコトアルコトアル仙字ハ凡人の元上コトアル雲上の事なりゆゑなり本
朝文粹コ名字已削于仙籍コ見ユル

治部類本民部の下コアルコトアル周礼
の天地四時の序次コ合コテコトアル
コ周礼コ依ルハ民部の下コ置ヘ
ココトアル職負令コトアル右氏コトアル

（コ今コアルコトアル改ムコトアル）
大宗伯周礼春官コ大宗伯之職事
邦之天神人鬼地祇之礼コ見え
テ本朝コハ天神地祇コトアル
テ別コ神祇官を置テ人鬼コトアル
織忌の事コゆゑコ神祇コトアル
（コ此省コ屬コトアル）コ礼和漢
のけちめなり然コ此抄コ天地
神祇之礼コトアル人鬼二字を除

治部省 當唐禮部

周禮春官大宗伯之職也天地神祇
之禮此官之所掌也本朝又當省掌
禮儀事准唐禮者神祇官可屬此省
也當時此省所掌雅樂事僧尼度緣

るハ准唐礼者云々といふハ為也
その唐礼ハ唐官の祠部とハ但
六典にもう祭天神地祇享人鬼
とありて天神地祇とのハあつた
事周礼と同じハ彼と是と
あはとてハ論ハたつらん

雅樂の事雅樂寮條ヨリ

度縁ハ度牒也その書法玄蕃式ヨ
見の令集解ヨ凡僧尼給公驗其
數有ニ初度給ニ受戒給ニ師位
給ニ三ノありこれ令制也延喜の頃
ニびつてハヤ異也玄蕃式ヨ令度畢
省先責手實申官與民部共勅籍
即造度縁一通省寮僧綱共署
向太政官請印即授其身但沙弥
尼度縁者用省印これ初度也
同式ヨ凡沙弥沙弥尼應受戒
者先勘會度縁然後受戒畢於
度縁未注受戒年月日并官
人署名即捺省印以為記驗

廟陵等事也

卿一人 相當正四位下唐名
禮部尚書大常卿

四位以上任之 多為公卿兼官

大輔一人 權大輔一人相當正五
位下唐名禮部侍郎

少輔一人 權少輔一人相當從五
位下唐名同員外郎欽

名家五位任之 公達又任之

大丞 唐名禮部郎中

少丞

六位侍任之

大録 唐名禮部主事

少録

らく受戒の時なるハ別ニ賜
ハてけ與書を驗とほると以
て令制ニたつと知ハ一同
式ニ僧の位記式を載けこれ
師位ニたまふ公驗也
廟陵ハたつ陵といふんや如ハ
勢ハ幡をハ廟字の中ニ入
ハハ

雅樂とハ職責令ニ由正卿とありて淫樂とハぬをハ和名抄ニ宇多未比乃豆加佐とあり

雅樂寮 唐名大樂掌
音樂事也

頭一人 無權官相當從五位上
唐名大樂令協律郎

五位諸大夫任之 堪音律者可應其

選歟

助一人 權助一人相當正六位下
唐名大樂郎

權助

六位諸大夫任之

大允

少允

六位侍任之

大屬 唐名大樂主事

少屬

玄蕃寮 唐名鴻臚寺掌諸蕃
事并僧尼度緣事

頭一人 無權官相當從五位上
唐名鴻臚卿典客郎中

五位諸大夫任之近例多以諸道輩

任之

助一人 相當正六位下
唐名鴻臚少卿

權助

同六位任之

大允 唐名鴻臚丞

玄蕃とハ令集解ニ云者遠也蕃者藩也とあるニ依て解へ一三韓その他の遠方の諸蕃を以て僧客と以て解くハ乃ろ一唐ニハこれと鴻臚寺とハ源中最秘抄ニ鴻臚ハ声の義也臚ハ傳也外の國の人のことを傳ふ心也と見ゆ本朝ニハ蕃人の舍る館を鴻臚と号して蕃人を掌る司をハ志といふその館の事ハ河海ニ桓武遷都之時大宮東西被置鴻臚館而差巖弘仁年中以東鴻臚為東寺賜弘法大師以西鴻臚為西寺賜守敏僧都其後七条朱雀東西被置鴻臚館而令居蕃客於其中也と見ゆる如し

諸陵寮ハ和名抄ニ依テ美佐々岐乃豆加佐ト訓ルことハ論テ其れとも言義美ハ御也佐々岐ハ丘陵の事ナリゆゑ御七散ヲ葬テ處の稱ニハあり任テ小高き丘の名也記傳ニ某天皇の御陵ナト云ときハ美波加ト云ヘク其御陵ヲ指テハ美佐々岐ト云ヘ一たトハ某處の美佐々岐ハ某天皇の御波加ト云ヘん如ク陵宇陵墓ヲ兼テ以テ即諸陵式ニ載ル御陵及ヒ皇后の陵并皇子の墓大臣以上の墓等也これうとくしく総ハ掌るといへともとの祭ることハ遠近の差別ニ依テ等差ありこれハ神代の三陵ヲ始め代々の陵墓いと多かきとも遠陵遠墓近陵近墓の別ヲ建テ奉幣の定めをせしむる但天安二年この中より殊ニ十陵四墓と拔テ近ト云ふこと三代實録ニ見え

少允

六位侍任之

大屬

唐名鴻臚史典客主事

少屬

諸陵寮

唐名廟陵署掌諸陵事

頭一人

無權官相當從五位上唐名廟陵令

近代賀家陰陽師五位已上任之

助一人

唐名廟陵監

權助

大允

唐名廟陵丞

少允

大屬

諸陵錄事

少屬

為禁忌之官仍寮頭之外強不任之

民部省

當唐戶部

周禮地官大司徒之職也邦國土地

延長八年二十陵八墓を近とせしむる事江家次第に見ゆこれ漢土の毀不毀の制に倣へる故その内天智を近の第一とすこれ中興のまゝて萬世不毀ふまはなる(當寮始めハ司治りて天平元年ニ寮ニたり續紀ニ見ゆ

民部省の一條類本治部省の上より周禮の天地四時の下に隨てんよそ然あるべき理也されハ推后の原書ハ民部治部とありんも

之圖戶口人民之數此官之所知也
本朝又如此天下之戶口皆掌之又
有圖帳國郡榜示載以明白謂之民
部省圖帳

北齊之民曹當作度支置後周之官依地官大司徒之職隋初置度支之官開皇中改民部
唐之民曹當作度支置後周之官依地官大司徒之職隋初置度支之官開皇中改民部
廟諱故也太宗在位詔官名及公私文籍有世民兩字不相連者並不諱至高宗始諱之
於度支之官主計算之官也美計之任本出於周禮天官之司會云云依周禮之地官之
此方の官と合さんこといふか

戸口の戸八家なり口八人なり家數人數を以
民部省圖帳ハ續紀天平十年八月令天下諸國造國郡圖進とあり
蓋取文書等了諸國圖帳少紛矣

納言以上兼之官職秘抄云必為大中
納言而近年及參議散三位百寮訓
要云宿老の納言もろとなり治部
卿より執りたる諸國の事ありと
取沙汰して天下の大事といふへま
ゆゑなり

卿一人 相當正四位下
唐名戸部尚書
當省卿者雖為四位相當古來公卿
兼官也仍無四位拜任之例多是納
言以上兼之仍中式之外以此卿為
重也
大輔一人 相當正五位下
唐名戸部侍郎

原注載原少校本

上卷

二十

名家之事既いり秘抄云民部輔
殊知吏途之法者任之

未取下ハ此官ニ任シる人ヲ他ノ
輕シめテおノり也平治物語ニ

少納言ハ一人モありてさラず
なくしてハさニぬ官也トある語意ト
おもふハ

大丞令ハ一人ナり類史云延暦九年
二月如置大丞一人

為重職也云ハ式部篇ニ此省の丞ヲ引
て叙爵の後民部大夫ト稱スるヲと
載リて丞トして執スるハ式民の二省
ふり叙爵の後ハさニぬ受領トふ
るゆニなりテ文粹ニ自レ此省丞ノ開榮

爵者皆元賢愚併任受領

主計ハ職貞令ニ掌計納調及雜收支
度國用勅勿用度トありテの雜物トハ
義解ニ依リるハ庸及諸國貢獻物
なりト其租調庸の内租ハ主稅調
庸ハ主計ナりテこの調庸ニ依テ一年
國司の支度ヲふリ也

諸道中ニ官職秘抄云大外記大夫史
諸道博士任之就中至算博士者必
兼頭助主稅亦同

近代以下六字古本類本共ニ大書ト也

權大輔

少輔一人

相當從五位下唐
名同貞外郎ト欤

權少輔

名家輩任之未取下ハ之官也

大丞二人

唐名戶部郎中

少丞二人

可然六位侍任之必可叙爵故為重
職也見式部丞之所

大録

唐名戶部主事

少録

主計寮

唐名金部又度支

頭一人

無權官相當從五位上唐名
金部郎中又度支郎中

諸道中為五位者任之

助一人

權助一人相當正六位下
唐名金部貞外郎

同輩為六位者任之近代五位任之

大允

唐名度支部郎

標註織原少校本

上卷

少允

六位侍任之

大屬

唐名度支主事

少屬

算師

相當徒八位下
唐名金部計史

主稅寮

唐名倉部又云屯田

同前

凡主計主稅謂之二寮當寮頭助為

算師の二字古本あり類本より

主稅ハ職負令ノ掌倉廩出納諸國田租春米と見えて租稅ハ此寮の所掌也百寮訓要ハ大炊寮ノ納へと米也と此寮よりかま入る也とのみハ非なり義解ハ依リ諸國の春米と廩ノ納ることハ主稅ノ掌なり大炊寮ノ納る負數の

算師ハ主計の任なり

謂之二寮云々朝野群載云二寮者本算道之官也聖代應其撰往古任此官之輩多是非本道儒學之主成業給舉之生是則携勾勘學諸之賦歛傳術數倫一朝之規授故也

戶口負數算勘ハ毎年諸國より奉る計帳ニ依り調庸を輸受き戶口の數をりり調庸の物を算勘する也古今計帳のことあり正稅ハ即租也租を貯へ置くと稅といふ續紀延曆四年七月勅曰正稅者國家之資水旱之備也

周禮夏官大司馬之職掌建邦國之九法以佐王平邦國制畿封國以正邦國云々鄭云馬武也
軍旅ハ周禮ニ萬二千五百人曰軍五百人曰旅これハ周禮の文を引く所なるゆゑこゝかきこも本朝も軍旅の制ありハ心得がくべき事也ハ軍防令

兵部省

當唐兵部

周禮夏官大司馬之職也軍旅兵馬及諸武官之籍皆是當官之所掌也

標註織原少校本

上卷

三十一

抄三万人以上為大軍五千人以上為中軍三千人以上為小軍とある此軍也また軍防令に旅師統二百人とありこれ旅也

兵部時々任之官職秘抄に中務式部兵部の卿ハ必以親王任之とありこれに依ると時々字的當りてはこれらもこの卿の親王なり例桓武の皇子賀陽親王清和の皇子貞真親王後醍醐の皇子護良親王なり其外もいふ多かり此は定例にハズルに、時々之事と堪はるれハ秘抄のくハ非ざるべし
近代の二字も本類本ともあり

四位侍臣の位字板本品より作る古本を以て改む侍臣とハ殿上人也

本朝又同之

卿

一人

相當正四位下 唐名兵部尚書

近代多為公卿以上兼官四位不任之或又親王任之凡八省之中中務式部親王官也兵部時々任之此外不任親王公卿以上任之民部兵部此為重治部刑部其次也大藏宮内又其次也然乃近代治部刑部大藏

宮内雖四位侍臣任之民部兵部更不任四位侍臣等也

大輔一人

相當正五位下 唐名兵部侍郎

權大輔

少輔一人

相當從五位下 唐名同

權少輔

名家五位任之公達又任之八省輔之中民部治部兵部名家執之仍地

輔字類本无

民部治部兵部名家執之名家の事ハ弁官の篇より字才の名譽

ある人をして字すあるゆゑより弁官
を規模と曰藏人篇より先任治
民兵等輔次補五位藏人次任
弁官是順路也とあるまじく知へ

諸大夫の事大納言の篇侍のこと中
務の篇より

武兵相並故云々武事式部篇二省
丞の注より大官武官を以て
對へりよき二省武兵也并進
のよを以て并へりよき二省武民
也

除授と仕官を除いて進位を授と
す
近來無沙汰を鎌倉建立より以來
武官の事將軍家を取あつりひ
て兵部の政空しくむれぬゆゑなり

下諸大夫等細々不任之

大丞 唐名兵部郎中

少丞

六位諸大夫并譜第可然之侍任之

當省丞本為重職武兵相並故武官

除授等令奉行之近來無沙汰不可

然事歟

大録 唐名兵部主事

少録

隼人司 唐名布護署此已下
諸司无權官并次官

正一人 相當正六位下
唐名布護將軍

諸大夫任之但近代諸道及侍等多

任之五位六位共任之但侍者五位

之後可任之歟

佑 唐名布護少尹

六位侍任之元者八位官也

隼人紀傳は大隅薩摩二國の人として

其國ハハ絶て敏捷猛勇故也

此名ある也といふこれハハハ神代紀

ハ火開降命是隼人等始祖也

と見えて今集解ハ良人也といへばハ

賤民也といへば也大儀の日よ吹

を發するを以て申めれりハハハ隼

人ハハハ薩隅の國民として銃勇の者

あるからハ京都ハ分番上下キ

めて宮牆を護らむられより

これつらハ京及畿内近國ハ居住の

者も出來りハ宮牆を護るハ本職

なるゆゑハ職責令よてハ衛門府の

被管なり然るハ後紀大同三年

二録よりその後弘仁二年ハ衛

標註職類少校本

卷林

三十三

令史

唐名布護主簿

士府を改てまゝ左右衛門府と
まゝれど是と準ふふ兵部と録
一はまゝ後世まで移置のまゝなり

八位官の八上は板本正字あり并疑云古本は正字无きと是と後より加ふて八位下も上字を加ふ

刑部省

當唐刑部

周禮秋官大司寇之職也。斷獄刑法
及諸訴訟當省所掌也。本朝先例如
此。然而被置檢非違使之後。刑部職
掌有名無實。但行贖銅等罪之時。猶
移于當省者也。

刑部省和名抄は字多倍多須都加佐
とありその訓義三代實録に見
えて職員令標注に載り
當省の省字并疑は依り官二作一
訴訟以上は周禮の司寇の事
又て本朝の事ありぬらざる當省
とありて下の本朝先例如此の六
字かふべき

被置檢非違使之後の被置の年月
ハ下奉使廳の篇に論より使廳
二所掌と刑部の所掌とかし
事なり故に刑部の職に使廳
は移りて刑部の名にふり
贖銅とハ五刑を贖ふ銅也五刑
とハ管杖徒流死なり名例律

卿一人

相當正四位下
唐名刑部尚書

四位以上任之。雖公卿又任之。

大輔一人

相當正五位下
唐名刑部侍郎

權大輔

少輔一人

相當從五位下
唐名同員外郎

權少輔

名家五位及諸大夫五位任之。近來
雖侍五位任之。抽賞之儀。不打任

又六議といふ事ありてハ議親議
故議賢議能議功議貴の六也
この六議の人の犯罪を贖銅に
て免るるは銅を以て其の錢
と徴せ延喜式にものより見ゆ。但
六議の人といふは犯八虐殺及び
の類ハ贖銅を用ひて刑を行
はり
移于當省とハ贖銅ハ古制にて且檢非違使
の任にあり故に當省に移さ也
雖ハ卿云々秘抄云々參議散三位四位官也

名家五位云々名家諸大夫ありてハ一也諸
大夫の内にて名望より優る家を名
家といふもれより劣るるを諸大夫といふ
名家のことハ并官篇諸大夫のことハ

事也

大丞

唐名刑部郎中

少丞

六位侍任之但雖諸大夫任之賴義朝臣男義光久為刑部丞

大録

唐名刑部主事

少録

大判事

相當正五位下唐名司直許事

賴義朝臣男義光云賴義の三男して新羅三郎と号以後附諸大夫篇は源氏若賴義義家後胤中畧自古諸大夫一列也とあり義光の諸大夫たるこれを以て知へしを諸大夫の當省の丞に任する此人のこゝハありまへりれと此人ハ武勇の名譽ありて世に知らるゆゑに抽出せらるるなり
大判事云職負令二八二人中四人少四人以上十人あり同令二解部といふ者大中少六十人ありこれ罪人

明法道輩任之為極官

中判事一人

近代不任之

少判事二人

相當從六位下唐名大理丞

明法道輩兼之

大屬

唐名大理録事評事主簿

少屬

囚獄司

唐名斷獄署掌獄舍事

正一人

相當正六位上唐名斷獄令

を問窮し白狀を作る判事これと按番し刑名を鑑定して卿大輔と共に罪名を定む也故に此職明法道の極官なりかくて彼解部ハ大同三年に廢せり

囚獄司和名抄に止夜乃豆加佐といふ人屋の義なり一按木を置く所を木屋といひ魚を置所を魚屋といふ類にて罪人を置く所なりゆゑに人屋といふ人の住む

家とのよとハ義異也

昔譯名号欵百寮訓要ニ呼名も不
吉コトヲテコトク近代の人の任之ぬ
事コトアリハ記一侍ら任といふ
ヤ一按よたといひ名号不吉ナリ
て囚獄の官な、てふあふハんやハ
れ録倉以來賞罰の權武家コト
つて有名死實ある故也

地官戸部之屬欵之ハ漢土の六部と
本朝の八省ニ比んといひコトナリ
コトナリ當らぬ事も出さる
屬欵ハ戸部ハ戸口を掌る官コト
本朝の民部也その戸口より輸
物を掌るゆゑコトナリてゆハ
部之屬ナリといひ然也然とも日
本紀通證ニ或曰按周礼天官
之下有大府掌九貢九賦九功
之賦以受其貨賄之入大藏掌金
銀珠玉銅鐵之屬則蓋近之謂
地官戸部也非

佑 相當從七位下
唐名斷獄丞

令史 唐名獄史

近代不必任此司若憚名號歟

大藏省 唐名大府寺

周禮地官戸部之屬歟本朝別置當
省不叶異朝之准據者也此省掌諸
國租稅諸公事之時成切下文令支
配于國々矣

卿一人 相當正四位下
唐名大府卿

四位以上任之雖公卿又任之

大輔一人 相當正五位下唐
名大府侍郎欵

權大輔

少輔一人 相當從五位下唐
名同負外郎欵

權少輔

名家殿上人及地下諸大夫共任之
近代諸道及侍五位等又任之八省

不叶異朝之准據者也

是ハ是叶ぬコトナリ事ナレ

掌諸國租稅の租稅二字調庸ニ
改む一租稅ハ民部の掌る處
也賦役令ニ調庸物云義解
云輸納於大藏省これナリ租稅
ハ京ニハ運送さば國ニ積置
也京ニ運送さば調庸と大收
ニ用る春米ナリ

成切下文を類本ニ切コ改て成
切下文と讀ハ非也成切の事大
藏ニあるコト切下文とハ今コ
切手ま切符ナリハ今コ
ハ賦役令ニ依る調庸の物
近代國ハ十月中國ハ十一月遠國ハ
十二月まで大藏省ニ納る制
あれとも中古以來國司の政
等開して京庫の輸納如

法ありぬるに支用不足に至る事
多し時大藏省より調庸
運送のともかゝる國一切下文を
送り催促せりなりとて別
記あり

願被取下と人の望まざるを
なり

昔者為重職とハ令制行きて調庸
京都に納せり昔ハ輔以上
とハたひて丞以下ハ其のつら
庸の殘物を私に取用せり
て家内も温かきりて権貴
のこもまひあひて外の丞より
かく用られ五位より受領に
任せり也今昔物語に紀
助延といふ者大藏丞にて富より
ハ米を貸して利を得しゆを

輔中頗被取下者也仍可然之殿上
人不望之

大丞 唐名大府郎中丞

少丞

六位侍任之昔者為重職給爵之後

任受領云々

大録 唐名大府主簿

少録

叙爵の後万石大夫といこれ空次上は御より取出て大藏史生の家と錢十五貫の質とせり事見えて史生に至る
まて米錢を自由なりとてなるといへり

織部司 唐名織染署
掌織部事

正一人 相當正六位下
唐名織染令

五位諸大夫諸道輩等任之昔者當

司正依功勞任受領云々

佑 相當正八位上
唐名織染丞

六位侍任之

令史 唐名織染史

織部ハ職貢令に錦綾細羅及雜染とあ
りて大藏に納むる縮布の別制のもの
を掌らぬ此司に織調りのハ
口に課する調とハ別也

周禮云「八周礼の考工記曰國有六職百工與居一焉或坐而論道或作而行之或審曲面勢以飾五材以辨民器或通四方之珍異以資之或飭力以長地財或治絲麻以織之これ依まはつはる百工の事也職官志に此准唐六部乃為工部獨以其所管有木工寮焉然其實應當殿中省殿中省置卿丞等官而掌乘輿服御之令者且其所管六局尚食尚藥尚衣尚舍尚乘尚輦今宮内之名與殿中相似而其所管亦同之内膳司即尚食局主殿寮尚舍尚輦二局併也而中務之所管亦與之同是以疑殿寮即尚衣局内藥司即尚藥局職原抄宮内省是似分中務者以此故也これを見れば工部に當らば之ひことなり

宮内省
當唐工部又云司農
周禮冬官考工之職也百工事當官所掌也本朝又如此宮内大小務又此省知之其職似分中務

卿一人
相當正四位下唐名工部尚書殿中監光祿少卿司農卿

四位以上任之雖公卿又任之

大輔一人
相當正五位下唐名工部侍郎

權大輔

今上例に依て改ハ
似分中務ハ上ニありし職官志の説ニ從
上

少輔一人
相當從五位下唐名同負外郎欵

權少輔

名家殿上人及諸大夫五位任之

大丞
唐名工部郎中

少丞

六位之侍任之

大録
唐名工部主事

少録

膳字とカレハデと訓ハ神武紀の葉盤の釋ニ柏葉介盛物也と見ゆレハ上代去々ありユコトテ食物と盛器の名となれり也又膳字ハ肉ニ从ひて食物の事あれこれとカレハデと訓きハ言のく主とならぬ也食器の事とならあり大膳の大ハ内膳の内ニ對シ大膳ハ臣下ニ賜ふ饗膳等の事を掌り内膳ハ御膳の事を掌る

殿上人の人字板本あり古本類本共ニあり今それニ從ふ殿上人ハ四位五位ニ限ること也故ニ殿上人とハ一ニハ四位五位といはしても一諸大夫ニハ六位もあり故ニ六位の任をくれぬ官なれば四位五位といはして聞えぬなりされハ四位五位の四字ハ下ニ屬て者一ハ百寮訓要ニ四職の大夫と申ハ大膳左右京修理等地下の諸大夫ふとの

大膳職

唐名大官署又光祿掌所と饗膳事

大夫一人

相當正五位下元正五位上弘仁改從四位下唐名大官

今

權大夫

殿上人四位五位地下諸大夫任之

華族殿上人強不任之

亮

相當從五位下唐名大官侍郎

權亮

殊ニ新一侍ヨリ

諸司助の司字ハ官字ニ當て見るハ一ハ寮職のたのみの諸官をツハ

不叶其理諸官の内ニて司ハ助也寮助ハ相當六位也當職の亮ハ五位也れハ六位の助より輕トシテハ理ニ合ハラス事

諸大夫侍共任之諸司助之中近代

頗為輕而諸司助多是六位相當也

當職亮相當五位也近代為輕不叶

其理

大進

唐名大官丞

少進

六位侍任之

大屬

唐名大官吏

少屬

木工寮

唐名將作監
掌工匠事

頭一人

相當從五位上唐名
木作尹將作大匠

權頭

頭者名家五位殿上人多任之權頭

者諸大夫五位中可然之輩任之

助

相當正六位下
唐名將作少匠

權助

六位諸大夫任之

大允

唐名將作丞
或木作丞

少允

大屬

唐名左校史
又將作主簿

少屬

算師

唐名將作計史

大炊寮

唐名大食署掌諸國御箱
田及公私熟食等事

頭一人

無權官相當從五位下
唐名大倉令導官令

算師令外也

大炊を和名抄に於保為と訓ふは
字にあり常陸風に記す大生里
の件は倭武命の故事を載て取大
炊之義名大生之村にあり生をいと

標注職原抄本

上卷

三十一

訓ハオヒの才を首ハナリトモハ
 大生即大炊の借字ニテ大炊ハ大
 飯の義ナリ 政事要畧ニ載ル
 多米宿祿の本系帳ニ召氏ハ
 今作大飯トあるを姓氏録ニ併
 考ル大炊寮御飯ト見え大
 炊即大飯ト和名抄の爲ニ作レ
 るハ誤ナリト明ラキ 飯を炊ク
 寮ナリト云ヒテ旁注ニ掌者國御
 稻田ト云ヒテこれト御稻田ハ畿内
 ニ置レテ廣ク諸國ニある田ニ
 ハあつテ以テ職負今宮内省
 ニ官田義解ニ謂供御稻田ハ置
 畿内者ト爲官田ト見え官内
 事若有遺損者必遣丞已下ト史
 生一人巡檢トあるを以テ知レ
 官田ト云ヒテ得ル處の米をハ當寮
 掌大炊式ニ凡供御料糯米並

五位諸大夫任之近代大外記中原
 師遠子孫相傳之温職中尤膏腴也

助 唐名主豊

權助

六位諸大夫任之

唐名大倉丞

大允

少允

六位侍任之

大屬

唐名大倉史

少屬

用官田其春得米一束ニ把五升糯
 米亦同ト云ウレハ此ノ注見トモ
 少ハ畿内御稻田所出之糯米也
 少ハ注セハ合ムヘク九炊モト旁注
 二公私執食ニあるハ公ハ當寮ト
 内膳司ト送ル供御の米のことナリ
 此レ官田所出之糯米ト凡供御糯米粟米春備日別送内膳司ト云フ私ハ節會其外いつても内裏ト於テ王臣男女ト
 玉小糯米を少内ト諸司宿直の熟食トあるヘトモ米を以テ充テテ少ト云フヘト大炊式トニハ見テ

主殿をトモト訓ハトモリの置を省

ハも也旁注ニ殿上殿下ト云フ
 殿上の二字ハ非也職負令ニ酒掃
 殿上ト見エテ殿下の洒掃をト掌
 礼トモ殿上の事ト預ラセ拾遺集
 二殿上りの伴のミヤツ心ハハこの
 春ト云フ朝まよめハおとハ歌ハ
 少ハ禁中落花を詠ルトて庭上
 の事ト云フハ殿上の二字削ル
 一ハ殿上の洒掃ハ職負令掃部

主殿寮

唐名尚舍局掌殿
 上殿下洒掃事

頭一人

無權官相當從五位下
 唐名尚舍奉御殿中監

五位諸大夫任之近代小槻家

隆職流

相傳任之

司条ニ鋪設洒掃とありて掃部の掌る所なり混まらば

小槻家の事并官条史下より隆職ハ師經の子也

助

唐名尚倉直長
殿中監

權助

六位諸大夫任之

大允

唐名尚舍丞

少允

六位之侍任之

大屬

唐名尚舍令史

少屬

典藥寮

唐名大藥署
又尚藥局

頭一人

無權官相當從五位下
唐名大醫令尚藥奉御

醫道極官也他人不任之

助

相當從六位下
唐名大醫正

權助

同道五位六位共任之

大允

唐名大醫丞

少允

他人不任之ハ和氣丹波兩流の外の

他人ハ任せらる也京都ニ藥園あり

竹屋町の西也今ハ田地と成りて

の藥園の井を半井と云ふ是ニ依

て和氣氏を半井典藥と云ふ千

本典藥といへり半井家武家ニ属

して後ハ丹波氏の姓ハ丹波氏を

小森と云ふ今典藥頭ニ任り官内

大領と兼ぬ

司之板本同華ニ作る今類本ニ従ふ

門徒ハ門生ニ同シ醫道和氣丹波の門生ナリ

醫道以下十二字類本

女醫博士ハ女醫ニ教授スル博士ニテ女ニテハ續紀養老六年十一月甲戌始置女醫博士ト見えて令外也玉葉承安五年四月召女醫博士丹波經基於前河梨勸散令合之為見習也ト云即男の證也女醫ハ醫疾令凡女醫取官戸

婢年十五以上廿五以下性識慧了者卅人別所安置教以安胎產難及創腫傷折針灸之法ト云也ハ賤女の業也令の比ハ女醫博士あり一ゆゑニ醫博士トテ教トクミテハ女醫ハ女醫博士ハ男也混々ト云

半昇殿ハ小板敷トテ昇ル所トシ小板敷トハ殿上の南面ト小板敷ありて差違ト上敷トテ建曆御記朝夕御膳奈ト著椅子召侍醫於小板敷令見用所トあり用所ハ御所ト訓テ御饌用ひしハ食物の事也トテ侍醫の見こハリ毒物ハ死ニ致ス用心事ト同書醫道奈ト侍醫常近龍顏者也召小板敷於殿上椅子奉拜天顔トあり之レハ殿上東一間南向

同輩門徒可任之歟他人強不任之

大屬 唐名大醫史

少屬

醫博士 相當正七位下 唐名大醫博士

醫道任之近代多是五位也

女醫博士 相當唐名同上

權女醫博士

針博士 相當從七位下 唐名主針

權針博士

同上

侍醫 相當正六位下 唐名侍御醫

當道重之歟侍醫其職此云半昇殿常候禁中故稱侍醫也主上出御殿上之時侍醫叅小板敷奉見龍顏故云半昇殿云々近代四位五位任之

權侍醫

同道五位任之歟

醫師 相當從七位下
唐名司醫

二侍子を置けり主上もさうく著御
一々その時侍醫と小板敷より侍
醫小板敷より北面より龍顔をうへ
御脈を取らば其職自令に診作の
字ありて釋二伺脈為診伺色為候
と云ふ候もあはれ也診の事御身近
く寄ねばかむらうと云ふは建曆御記より召復宜所撰纂中取御脈例也とありて殿上は所て御脈を取らば其候
ハ尋常の御時の事にて診ハ病氣の御時の事なるべし小板敷より昇り殿上へとねまことの昇殿せしめゆと云ふ昇殿
と云ふ也

同道五位の下板本六位の二字あり古本の元二從一

醫師百寮訓要云六位に凡鎮守府左右衛門府に醫師を置けり人の病を療せん為也云々職負令を考る
二衛門府醫師一人左右衛士府醫師各二人左右兵衛府に醫師各一人ありまは後紀弘仁三年四月定鎮守府官負云々
醫師醫師各一員訓要ハこれハ依てかざるも一

掃部ハ和名抄加牟毛里と云ふハカニモ
リなりニを牟一作るハ訛也その故
ハ古語拾遺に天祖彦火尊娉海神
之女豊玉姫生彦效尊誕育之日
海邊立室掃守連遠祖天忍人命
供奉陪侍作掃部仍掌鋪設

掃部寮 唐名洒掃署
掌鋪設事

頭一人 無權官相當從五位下
唐名洒掃尹

五位諸大夫及諸道五位任之近代

大外記中原師光後胤相續但於今

者斷畢歟

助 相當從六位上
唐名洒掃少尹

權助

六位諸大夫任之

大允 唐名洒掃丞

少允

遂以為職号曰監守とありて以て知
る一和名抄和泉國和泉郡掃守
加牟毛利とありて當察令條に
てハ大藏の属官にて司あり一令
集解に弘仁十一年以内掃部司併
掃部司改司為寮隸宮内省と見
えてこの司の外に内掃部司ありて
そハ宮内省に属しなり一弘仁に此司
に内掃部を併て大藏を放して宮
内省に隸せしむ鋪設むねと宮内
省あり故也
中原師光後胤云々これ中原三流の
内にて押小路家のこと也斷畢と
ハ押小路家北朝に仕へりゆを
曾侍南朝にて絶たざるを以てかくか
さむらひなりこの書ハ南朝に進ま
れ書おれハなり

人奉膳一人と定りてより此抄の如
し知名抄に令有奉膳二人後停
奉膳一人為正と見えられかく定
れりやふらさ事也

近代奉膳乃為正とハ舊くハ正ニ他氏を任
し近代ハ高橋氏奉膳より正ニたりし也然
るに今代不任正以奉膳擬正一流之外他人
不居しハ非也古本よりなれハ除くハ下
巻諸國篇ニ志摩高橋氏為内膳正者任
之とありこれ奉膳より正ニ轉じて志摩守
を兼ることなり

已上膳部外不任之

造酒司 唐名良醞署
掌御酒事

正一人 相當正六位上
唐名良醞令

近代諸道五位等任之

佑 相當從七位下
唐名良醞丞

常不任之

令史 唐名良醞史

采女司 唐名采女署

正一人 相當正六位下
唐名采女令

諸道中雖六位又任之

佑 相當正八位上
唐名采女丞

常不任之

令史 唐名采女史

采女司ハ類史大同三年正月縫部采
女二司併縫殿寮その後後紀弘
仁三年二月復采女司これよりま
舊の如く采女ハ後宮の官女より
御膳に預る者の稱也故又水司に采
女六人膳司に采女六十人ありその品ハ
他司の女嬬と同くかて増し女嬬ハ
皆縫殿寮の所掌りて此司よりか
り此司にハたゞ采女のみを掌る後
宮職貞令に其首采女者郡少領以上
姉妹及女形容端正者皆申中務
省奏聞とあり國郡に於て未擇
むゆゑに采字を用ふウ不ノと
訓む言義ハウナゲへの約して領中
の事ニ依る名也ハハ古事
記傳よりゆ

諸道中雖六位云々諸道の上板本同上の三字ありハ行也古本に依て除く正六位相當ちれと多く五位より帯はる

かゝ五位に定まらざるや、まじらざるを此正八諸道の内より六位といへとも任らる也六字類本七に作さるるりて非あり

主水ハ職負令ニ掌醬水饌粥及氷室
事と見えて御井水の事と職と及之
ハ正月御生氣若水或ハ四月より九
月までの供御の氷の事等知之正月
七種粥大嘗會解齋粥等もまじ
知之和名抄毛比止里とありモヒと
ハ水の古言也

相傳任之ハ此官と家ニ傳ふるの事
あり百寮訓要ニ今も諸國の氷
室と管領して夏の氷と奉る也とあ
る如く氷室と傳領する事也

主水司

唐名上林署云々不慥
或云膳部署又不慥

正一人

相當從六位上唐
名上林令

同上近代大外記清原賴業真人子

孫相傳任之

佑

相當正八位下
唐名上林丞

常不任之

令史

唐名上林監事

已上八省畢

卿以下弁疑去此三字輔以上の誤歟中務
の輔以上七省の輔以上より相當一階
高くして丞以下八省は同一中務篇
に大丞正六位上とありハその誤に從へる
後人の附會也
異朝ハ唐朝也唐にてハ中書省より重く
て尚書省より相對より別記とハハハハ
諸寮助の寮字弁疑云舊本司に作さ
り助に改たつハ是に似て非也諸官を
へてと諸司といふハその諸司に同一
といはしむる助と任らるる司を取分てい
ふハ寮とある中にも是也
内藏陰陽云々内藏ハ醫陰三道陰陽ハ賀
茂安倍玄蕃ハ諸道輩諸陵ハ賀茂
陰陽師典藥ハ和氣丹波より任て
ハ其道ありハ諸大夫等を任とる也
其外諸司助の司字職寮に涉るゆゑ
こ用たるものにて泛説也
侍以下の以下二字一本なきこと從へ
二寮助ハ主計助主稅助の事あり

中務者卿以下相當稍高七省相當
皆同然乃於中務者似不混餘省准
據異朝之故歟凡八省被管諸寮助
内藏陰陽玄蕃諸陵典藥等者所任
已有其道仍諸大夫等不任之其外
諸司助諸大夫任之侍以下不任之
皆是可然之諸大夫官也但至二寮

諸司佑の諸司ハ準人司以下某司と稱
はる官を以て省寮臺司を以て諸司
といふとハ別也

諸三分云々三分とハ諸國掾の事也参
議篇よりハり掾ハ國に於て判官なり
故にその名を轉して諸司の判官とい
はく三分といふもの也

助者多以諸道任之也至允者一向
六位侍官也諸司佑者諸三分中頗
為劣然レ而可隨其所望也

標注職原抄校本卷上

